



神戸常盤大学

# キャンパスレポート

2017.12  
No.56

## 建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

[www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/](http://www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/)

## KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ 2017

### 地域交流センター

2017年10月1日(日)、快晴の秋空のもと、『健康ふれあいフェスタ2017』を開催しました。本行事は2010年に、玉田学園が地域社会に貢献する学園として、地域の皆様との交流を深めたいとの思いから始まりました。その思いをさらに発展させるべく、過去7回開催された『TOKIWA健康フェア』の名称に、地域の皆様とのつながりをより深められるよう、“ふれあい”という文言を付け加え、また子どもから大人まで楽しめるお祭りになるよう“フェスタ”と変更をいたしました。その名に相応しく、過去最高となる1,084名の地域の皆様にご来場いただき、学園の一大イベントとして成功裡に終了いたしました。お越しいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。



アロマハンドマッサージ



心肺蘇生体験



健康チェック

第1回目の健康フェアから数えて8回目となる本行事も地域の皆様にすっかり定着し、広報開始前から「今年も楽しみにしているよ」とのお声をいただくようになりました。毎年恒例の頸動脈エコー検査、体組成測定、血管年齢測定等の健康チェックやお口のはたらきチェック、健康相談ブース、子どもが楽しめる遊びスペースの他、昨年大好評だった「はり・きゅうで免疫力アップ」、 「アロマハンドマッサージ」、 「理学療法士による体力測定」に加えて、今年新たにJ:COM神戸・三木のご協力を得て「ディズニーチャンネル無料試写会」も行いました。また、会場の動線の見直しを行い、健康エリア、飲食・発表エリア、子どもエリアと、プログラム内容や対象者別に実施場所の配置を考え、子どもから大人まで過ごしやすい空間づくりを目指しました。これについては、来場者アンケートにも満足のお声を頂いております。

さて、本行事タイトルの“ふれあい”の中には、日頃よりお付き合いのある長田区役所、長田警察署、長田消防署、兵庫県臨床検査技師会、兵庫県鍼灸師会、ときわ病院、いたやどクリニック、地域の福祉作業所、J:COM神戸・三木、サンスター、シスメックス、JR西日本あんしん社会財団等の、行政機関、関係団体、企業の皆様とのつながり・ご縁を深めるという意味も込められています。行事開催にあたり、多大なるご協力を賜りましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

さらに、当日は地域の皆様をお迎えする学園の顔として、本学学生と神戸常盤女子高等学校生徒の総勢約300名がボランティアとして活躍してくれました。地域の皆様に向けられる笑顔、一生懸命に活動する真剣なまなざし、きびきびとした所作に、教職員一同改めて学生・生徒の成長を実感しました。また、ときわ幼稚園、本学同窓会にもご尽力いただき、大変充実したプログラムになりました。これら学園内の“ふれあい”も、学園のさらなる発展に向けての大きな一歩となったことと思います。来年、学校法人玉田学園は創立110周年を迎えるにあたり、益々地域に社会貢献する学園としての使命を果たすべく、地域交流センターの事業もさらなる充実を図ってまいります。

本行事の開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました全ての方々に厚くお礼申し上げますとともに、いつも学生・生徒たちを温かく見守ってくださる地域の皆様に重ねて感謝申し上げます。



お人形さんへの看護



キッズランド<人形劇>



歯みがき指導



顕微鏡体験



健康相談



炊き出し

## 目次

KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ 2017	1
実習体験記	3
基盤教育始まる!	4
小豆島プロジェクト	
海外研修	5
市民公開講座「子宮頸がん検診」ディスカッションに 本学学生が参加	6
第6回 神戸常盤学術フォーラム	
平成29年度 市民救命士講習会	
SD研修会	
ときわ幼稚園通信	7
同窓会だより	
クラブ活動結果報告	
第51回常盤祭	8
リレーエッセイ	

# 実習体験記



看護学科2年  
衛藤 璃子

## 基礎看護学実習を終えて

私は2週間、脳梗塞による右片麻痺と闘病意欲の低下のあるA氏を担当しました。A氏は今まで医師として多くの患者さんや看護師と関わってきた方で、医療知識も豊富で、自分の状況やこの先のこともわかっていました。受持ち当初、私は「何かしないと」と思い、生活行動の中で健側を生かし歯磨き粉をつけることをただ勧めてしまい、A氏には「絶対に無理」と拒否されました。その時、私はもっとA氏を知ろうと思いました。カルテや少ない会話から、A氏は家に帰りたいけれど帰れないという問題や動けない辛さから、意欲が低下していると気づきました。そこから私は、自分でできることが増えれば帰れるという希望に近づくと考え、その一つとして、再度健側で歯磨き粉をつけることを提案し、具体的な行動計画を立てると自分で行ってもらうようになりました。患者さんには今までの生活があり、その生活が考えや行動を作っているという「対象理解」をA氏から学んだ実習となりました。



看護学科4年  
和田 美智子

## 課題別総合実習を終えて

課題別総合実習は、3年次の各看護領域別実習を踏まえ、自己の将来像から看護領域を選択し、自己の課題解決や看護観を深めるために主体的に実習に臨みます。私は在宅看護学領域にて「障害により自己概念を変化せざるを得ない患者の生活の再構築を支える看護」というテーマのもと、テーマや退院支援看護の周辺知識や概念、理論の理解等の準備を整えて実習に臨みました。実習中は脳梗塞術後の患者を受け持ち、情報を詳細にくみ上げ、思いの背景まで迫る過程で明確化された「患者・家族間の病識のズレによる感情表出の妨げが患者の障害受容を阻害している」という課題に対し、退院支援看護として、そのズレをすり合わせるとともに、患者・家族の受容段階や希望に応じたチームアプローチの為の情報共有を実践しました。私はこの実習により、生活の再構築を支える看護とは、対象者を生活者として俯瞰的に捉え、対象の障害受容を促すとともに可能性を見出す過程に寄り添うことだと学びました。将来は、地域にて対象が希望を実現する過程を支える看護師を目指したいと思います。



こども教育学科3年  
朝川 優花

## 施設実習を終えて

今回の児童養護施設での実習は、私にとってとても有意義な時間となりました。私が今回の実習で学んだことは、大きく分けて2つあります。1つ目は、環境整備の大切さです。主に棟内清掃や洗濯、食事準備を行いました。利用者が過ごしやすい環境を提供することで、生活が安定し、心の安定に繋がっていくことを教えていただきました。2つ目は、積極的に関わる大切さです。保育者は利用者のケアも行なっていきます。十分なケアを行なっていくためには、利用者保育者間で信頼関係を築き「知ってほしい」「伝えたい」と思ってもらえるような働きかけをしていくことが大切だと感じました。実習担当の先生から「失敗してもいい。今失敗しておいて、たくさんの課題を見つけていけばいい」という言葉をかけていただき、とても気持ちが楽になり、個々の特性の理解を深めようとすることができました。10日間という短い期間でしたが、探究心をもち積極的に取り組み、とても充実感のある実習でした。



口腔保健学科3年  
毛利 薫

## 臨地実習を終えて

臨地実習を終え、自分自身を振り返ってみました。いつも近くに感じていた仲間と離れ、大学とは違う慣れない環境の中で、実際の患者さんやスタッフの方々と関わりを持つことに不安や緊張でいっぱいでした。しかし、教科書で習ったことが実際に目の前でされる情景に圧倒され、座学では理解できていなかった内容を理解することができ、不安が解消された感覚を今でも覚えています。また、歯科衛生士の三大業務はもちろんですが、患者さんと信頼関係を築くことが重要であると感じるとともに、患者さんの命を預かり、危険と隣り合わせだという意識を持たなくてはならないと改めて思いました。臨地実習へ臨むにあたり、見守ってくれた家族や仲間、ご指導頂いた先生方やスタッフの方々のご支援のもと実習を無事に終えることができました。この経験を生かし、口腔を通して沢山の患者さんの命や生活を支える歯科衛生士になりたいと思います。



看護学科通信制課程2年  
川合 明美

## 臨地実習を終えて

臨地実習を終え、高齢のA氏への援助場面を振り返ってみました。A氏は検査入院中で倦怠感が強く転倒の危険性がありました。私は安全のために手助けするものと思いついていましたが、看護師は、側で見守り続けているだけでした。指導者によれば、転倒予防の為に安易に手を差し出すことでA氏が動作する機会を奪い、ADLの低下に繋がるからとのことでした。残存機能を低下させない為の自立支援の重要性、入院前の生活習慣や背景に応じて在宅へのゴール設定が変わり、看護援助の中にも、A氏の在宅復帰への思いを尊重されていることを学びました。その場の安全だけに留まらず、病院は通過点であり在宅での生活につなげた看護を学べたことは大きな喜びです。臨地実習では指導者の方々から親切にご指導いただき、貴重な学習の場となりました。実習での経験は、私にとって「宝」となり大きく成長することができたと改めて実感しています。



# 基盤教育始まる!

前 教育イノベーション機構長 柳 敏晴  
口腔保健学科 教授



近年、高等教育の質的転換に加えて質保証が求められています(中教審答申2012)。本学においても、学園創立110周年を控え、教学マネジメント改革を進めています。学長のリーダーシップの下、学長会議、各学科、教職員組織が一体となり、学習成果の評価の重視と質保証を目指しています。ときわ教育目標を策定し、本学の教育すべてを通して、全学生対象に修得が図られるべき諸能力としてときわコンピテンシーを掲げています。また、三つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)に加え、本学独自の学生の多様な学びと成長を支援するスチューデントサポートポリシー、教学・学生支援等の評価を行うアセスメントポリシーを設けました。

これらの全学ポリシーに基づき、各学科で進めていた教養教

育を、基盤教育としてまとめ、各学科を越えて全学科目として設置しました。設置で意図したことは、幅広い世界を目で見て、耳で聴き、からだどころで感じ、「学ぶ喜び、知る愉しさ」を全身で修得することです。基盤教育分野は、「学びの始め科目群」「人間探究科目群」「創造実践科目群」からなり、学びの始め科目群では、大学での学びの「型」を修得し、基礎的な力を身につけることをねらいとしています。人間探究科目群では、「外」に目をやり触れることで、人間の幅を広げることをねらいとして、多様で幅広い教養科目を準備しました。創造実践科目群では、自らの「手」で創り、未来を切り拓き進んでいく強さの獲得をねらいに、自主創造学修やサービスラーニングを採り入れました。

平成29年4月から始まったばかりですが、学内が1年生を中心に、生き生きと活性化してきたように感じているのは、私だけではないと考えます。点検・改善を継続的にいき、よりよい「ときわ教育」を創っていきたいと考えていますので、ご理解ご協力をお願いいたします。



授業風景「まなぶる▶ときわびと」



授業風景「大学道場miniゼミ」



授業風景「大学道場miniゼミ」

## 小豆島プロジェクト

今年で5年目となるこのプロジェクトは、少子高齢化が急速に進む小豆島を、「学生の若い力を借りて、元気に活性化したい。」との町長の依頼を受けてスタートしました。

今回は8月16日から3日間の日程で、総勢50名(医療検査学科8名、看護学科6名、こども教育学科12名、口腔保健学科7名、神戸常盤女子高等学校3名、卒業生5名、教職員9名)が参加しました。

このプロジェクトでは、大きな目的を3つ掲げています。1つ目は、同級生・先輩と後輩、所属学科の枠を超え団体生活(合宿)から得られる貴重な経験。2つ目は、「学生リーダーの育成」で、授業(科目名:地域との協働B)として、2年生以上を対象に当該プロジェクトの企画・立案・実施・運営、そして後輩学生の統率までカリキュラムに組み込み、リーダーシップの醸成を図ります(来年度より単位化)。3つ目は、このプロジェクトの最大の魅力である、島の「自然」・「文化」・「人」に触れ、実習や地域活動を通じて、いわゆる「人間力」を養うことです。

実習先となった島唯一の公立病院である「小豆島中央病院」、そして「小豆島こどもセンター」・「せいけんじこどもえん」の2つの認定こども園で、お世話になった指導者の方々はもとより、島での生活全般を支えてくださった島民の皆さん(おとうさん、おかあさん)から教わった人の「温もり」や「思いやり」の心には、学生のみならず引率した教職員一同深く感銘を受けました。大人への成長過程である学生たちにとって、大きな影響を与えたことと思います。

また、専門職で活躍する卒業生たちが仕事の合間を縫って参

地域交流センター  
ボランティア事業部長 猿渡 康博



加し、学生たちとの活動を通して、このプロジェクトの意義を、そして卒業したからこそわかる本学で学んだ意義を自然に後輩たちへ伝える姿に、ただただ感激させられました。これは、本学の強みでもある「きめ細かな学生指導」の産物と言っても過言ではなく、来年(平成30年)に学園創立110周年を迎える本学の財産となりました。



小豆島町長への表敬訪問



地元幼稚園児との交流



早朝ラジオ体操

## 海外研修

### ボストン

#### 大学コンソーシアム 学生海外派遣プログラム

医療検査学科3年 鍋島 穂乃佳



私たちが研修をさせていただいた施設はマサチューセッツ総合病院(以下MGH)です。MGHはアメリカ国内で最も評価されている医療機関で、世界初エーテル麻酔による外科手術が行なわれた病院としても有名で、麻酔手術を行った「エーテルドーム」が残されています。MGHで印象的だったのはPOCTの活用です。POCTとは血液、尿など基本的な検査が簡易に短時間でできる

検査のことです。アメリカでは糖尿病患者が多く、簡易に糖を測定し患者さんの体内管理をしているということでした。いつか日本にもPOCTが普及される日が来るかもしれません。研修を通して、アメリカの医療体制や精度管理など多くのことを学ぶことができました。



エーテルドームにて



POCT(簡易検査法)の見学

### ネパール

#### 大学コンソーシアム 学生海外派遣プログラム

医療検査学科3年 金沢 涼加



私たちは大学コンソーシアムひょうご神戸海外研修でネパールを訪問しました。ネパールの臨床検査技師を目指す学生さんたちと町を歩き、飲水を集め日本基準と比較しました。多くの水から大腸菌群が検出され、水道整備がまだ整っていない実情がわかりました。日本では当たり前のように感謝しないとけないと感じました。ネパール医科大学附属病院訪問では、検査室、病棟、診療室などを見学しました。世界共通で行われている検査も見ること

ができ、貴重な経験をさせていただきました。今回の研修で、日本では普段経験できない多くのことを学べました。またネパールの学生さんと仲良くなることができ、有意義な経験ができてよかったです。



ネパールの臨床検査技師を目指す学生さんたちと



日本の踊りを披露

### フィリピン

#### 大学コンソーシアム 学生海外派遣プログラム

看護学科3年 小倉 香月



私が、研修をさせていただいたSan Lazaro Hospitalは、フィリピン・マニラに位置する感染症の大きな病院です。活動内容は、病室へ伺い、デング熱や破傷風などの患者さんと実際に触れ合ったこと、ICUを含む施設内の見学、DVDIによる狂犬病や糸状虫症等の学習です。大学の実習や日本ではあまり見ることでできない感染症を実際に見ることができ、貧富の差やフィリピンの環境の現状も含めて学習することができました。また、休憩時には、

指導者の方と日本のHIVや少子化についてお話することやフィリピンとの食文化の違いについてもお話することができました。今回は、看護学生1人で研修ということで不安もありましたが、楽しい指導者さんと充実した学習内容といい思い出がなく、行くことを決心して本当によかったと思います。今回の研修で感染症や公衆衛生への興味が深まったため、より学習に励んでいきたいです。



指導者へ学習した内容を発表



修了証書授与 お世話になった方々と共に

### シカゴ

#### 3年選択科目・海外研修

口腔保健学科3年 小沼 紗季



海外研修では、アメリカ歯科医師会、Sunstar、Hu-friedyでの工場見学、歯科衛生士養成学校での交流、現地の歯科衛生士による講義を受講してきました。多くの事を学びましたが、歯科衛生士養成学校の学生の自主性を持って学ぶ姿勢は見習わなければいけないと思いました。さらに、「歯科衛生士」という職業の地位が確立され、口腔保健の意識が高いことも感じることができました。日本でも、もっと歯科衛生士が活躍できる場が増え、

多くの国民が口腔保健に対する意識が高くなって欲しいと強く思いました。今回、海外研修に携わって下さった先生方、両親、現地の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。研修で得た知識と経験を活かし、視野を広げ頑張っていきたいと思っています。



歯科衛生士養成学校学生との交流



Hu-friedyでの講義

## 市民公開講座「子宮頸がん検診」ディスカッションに本学学生が参加

5月28日大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で行われた第58回日本臨床細胞学会総会にて、子宮頸がん撲滅を目指したイベント、市民公開講座「子宮頸がん検診」が開催されました。本学医療検査学科4年細胞検査士養成課程の高橋夏希さん前田悠希さんが学生代表としてディスカッションに参加しました。イベントでは各界を代表する子宮頸がん検診の専門家が参加され、自民党野田聖子衆議院議員が、国政の立場から検診の在り方を問う特別講演があり、ディスカッションでは日本維新の会伊東信久元衆議院議員、金沢医科大学産科婦人科学笹川寿之教授、子宮頸癌サバイバーの歌手松田陽子さんらが熱心な議論を交わされました。本学高橋さん前田さんは近畿圏第一線の臨床医や細胞検査士に混じり、細胞



左より前田悠希さん、松田陽子さん、高橋夏希さん

検査を学ぶ学生の立場より子宮頸がん早期発見の重要性を訴えました。



ディスカッション

## 第6回 神戸常盤学術フォーラム

KTU研究開発推進センター長  
口腔保健学科 教授 足立了平



秋の長雨はすすき梅雨の通り名で、梅雨とは逆に前線が北から南下するため冷たい雨になります。3日以上続く秋雨を秋霖(しゅうりん)と表現します。霖とは木立ちが並んで続く様をいいます。10月14日は秋霖の合間をぬっての曇り空。第6回神戸常盤学術フォーラムが、濱田学長の特別講演を皮切りに開催されました。演

題数26題、教員77人、学生5人を含む95人の参加者という一大学術イベントです。学科長推薦演題は、今年も卒業生を迎えて2401講義室、口演発表は2104教室で実施され活発な討議が行われました。カルティベでのポスター発表はしっかりと練られた研究発表のパネルが秋霖のごとく立ち並び、盛況を演出していました。ご参加いただいた皆さんに感謝申し上げます。



ポスター発表の様子

## 平成29年度 市民救命士講習会

9月20日、21日に、「平成29年度市民救命士講習会」が開催されました。ここ数年、毎年この時期に全学科1年生を対象として、心肺蘇生法やAED使用法等について、体験しながら学ぶ機会が共有されています。医療や教育等、人間のいのちに直接関わる仕事を目指す本学学生にとって、初年次において学科ごとに一堂に会し、救命処置の基本について実際に学ぶことは、とても貴重な機会となっています。



看護学科 講師  
永島 聡



胸骨圧迫とAED操作

## SD研修会

9月9日に本学SD研修が『大学人セミナー～「本学の使命を」問い直す』と題し、日本私立学校振興・共済事業団の河田悌一理事長を講師にお迎えし、開催されました。本研修では、私立大学を取り巻く現状と魅力ある大学づくりを中心に、講演の趣旨である「大学人の在るべき姿と果たすべき改革の重要性」について非常に貴重なお話を聞くことができました。また、研修後半には、河田理事長、本学の濱田学長、中村法人本部長による鼎談も行われ、本学が今まで取り組んできてきている『教職協働』なくして、大学改革はなしえない!ということを再認識することが出来ました。

今回の講演は、110周年を迎えようとす

る本学園が、さらなる飛躍を目指すために何が必要であるかを参加者に考えさせる有意義な機会となったようです。

本講演を快く引き受けてくださいました河田悌一理事長他関係者様に厚く御礼申し上げます。



河田悌一理事長による講演



左より、濱田学長、河田理事長、中村法人本部長



ときわ幼稚園 教諭  
宮川 智菜美

2学期に入り、幼稚園では「KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ2017」に向けて水族館をテーマに製作活動をしました。

年長児は釘と金槌を使って木材を組み合わせ、水槽から自分達でつくりました。何の生き物をつくるか、どんな水槽にするかを相談しながらグループの友達と一緒に1つの水槽をつくりました。

年少・年中児は夏休みに園外保育で行った水族園の魚を思い浮かべながらつくっていきました。年中児はイルカライブでジャンプをしているイルカをつくったりペンギンをつくったりしました。年少児は画用紙を切って魚に模様をつけたり、紙を丸めてカニやカメの体をつくったりしました。2歳児クラス子どもたちはにじみ絵で遊んだものを先生が魚の形にして水槽の中で泳がせました。

みんなの作品を合わせると色々な生き物がいる楽しい水族館になりました。

これからも「つくることって楽しいな」と感じたり「こんなものをつくりたいな」と自分なりに考えたりする姿を見守っていききたいと思います。



水族館製作



## グローバル視点での検査

衛生技術科21期生 黒川 智佳子

阪神大震災を機に「仕事で海外に行ってみよう」という夢だけを果たしたく医療機器メーカーに転職し、一番誰かが興味を示さない血液凝固線溶検査に力を注ぎ、アメリカやアジアへ仕事で海外に行く夢を果たすことができました。現在は最後の夢としてMade in Japanの医療機器、試薬を海外に展開できればと日本光電の開発部門に所属しています。医療機器を海外で展開していくには日本では経験することが少ない遺伝性疾患(例、第V因子ライデン変異やサラセミア等)の理解が必要となってきます。また各国の環境が異なり、例えばインドでは生化学分析装置などで使用する水は高価で大きなタンクが検査室に置かれ、温湿度が管理されていない検査室も多くあります。試薬交換作業は検査技師とは別の労働者が実施します。患者は検査ラボに検査だけを実施しに行き、費用は自費で各検査の金額が書かれている喫茶

店のメニューみたいなものがあり、各ラボで検査金額が異なります。疾患、使用環境、コストが様々なグローバルへ日本の特長である精確性が優れた検査技術をグローバルとのギャップを理解しながら展開できればと考えています。海外の検査に興味を持ってみませんか？



インド検査室にて

## クラブ活動結果報告

### 大会結果

第59回全神戸短期大学 総合体育大会

平成29年7月2日(日) 当番校/神戸山手短期大学

バレーボール部  
女子 2位  
(交流戦)男子 2位

テニス部  
団体戦 (交流戦)女子 優勝  
(交流戦)男子 優勝

バスケットボール部  
(交流戦)女子 優勝  
男子 2位

卓球部  
団体戦 (交流戦)女子 2位  
個人戦(ダブルス) 女子 永井・林組 2位  
小杉・杉本組 3位

バドミントン部  
団体戦 女子 優勝  
男子 優勝  
個人戦 女子 高橋・高木組 優勝  
女子 豊島・原田組 3位  
男子 谷・長田組 3位

### 学生連盟試合

バレーボール部  
関西大学バレーボール連盟 春季リーグ戦(女子)5部  
平成29年4月16日~5月21日 7戦3勝4敗  
春季リーグ戦(男子)6部  
平成29年4月16日~5月14日 4戦3勝1敗

# 第51回 常盤祭



## 第51回 常盤祭を終えて

常盤祭実行委員長 看護学科2年 中野 亜瞳



今年度は「逃げるは恥だが現実逃避も大事」をテーマに、11月25日、26日の両日に第51回常盤祭を開催しました。私達はそれぞれの専門職者を目指し学びを深める中、決して楽ではない道のりを歩んでいます。時には「気分転換がしたい」という思いを抱えることもあるでしょう。そこで、仲間との思い出づくりや自分の中の新たな可能性の発見など、忙しい毎日から少し逃げ出し、ここでしか見つけられない大切な何かを感じる機会になるようにとの願いを込めて当日を迎えました。

先輩方が作り上げてきた伝統を大切にしながらも、一味違った新企画を創ろうと実行委員を中心に沢山の意見を交わしました。その中で、各々が新たな力を発揮し、これからの大学生活はもちろん、一生大切にできる「何か」を得ることができたと思います。

最後になりましたが、常盤祭にお越し頂いた方々、地域の皆様、ご支援・ご協力頂きました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

### リレーエッセイ 「伊豆の踊り子」旅情



こども教育学科 教授  
牛頭 哲宏

その山道への入り口は、国道414号線のゆるやかな左カーブを曲がり切ったところに現れた。下田街道、天城山隧道へと続く旧道である。ひとたび天城路へ入ると、あたりは鬱蒼とした木々に包まれる。鼻の奥で懐かしく不思議な匂いがした。

「道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃…」この一節を語じた方はたくさんいるに違いない。場所、時間、人物という小説の三要素が冒頭の一文に全て表現されている名文である。その景色や空気を肌で感じたくなった私は、この夏、妻を誘って伊豆半島を旅行した。修善寺から天城峠を越えて河津へと抜けるわずか30kmほどの道程を愉しむのが私たちの旅の目的である。

鄙びた佇まいの湯ヶ島温泉、演歌をくちずさみたくなる浄蓮の滝、麓から続く杉の木立、雨上がりの山道、そして、ヒグラシの音が静かに響く天城山隧道。

鼻の奥の匂い、それは、紺飛白こんがすり、次の季節を迎えようとしている木々の香り、妻の笑顔、そういったものが入り交じった「甘い快さ」だったのかもしれない。